

日本薬史学会 2022 年会(宮城)

プログラム



会期:2022年11月5日(土)

会場:東北大学大学院薬学研究科・薬学部棟

主催:日本薬史学会

共催:東北大学大学院薬学研究科

後援:宮城県、(公社)仙台市薬剤師会、日本薬用植物友の会

プログラム

受付の開始 (9:30～)

開会の挨拶 (10:00～10:05)

日本薬史学会 2022 年会長 江戸清人

会長挨拶 (10:05～10:10)

日本薬史学会会長 森本和滋

一般口頭発表 1 薬学関連組織の歴史 (10:10～11:10)

座長 村田正弘 (NPO セルフメディケーション推進協議会)、
安藤崇仁 (帝京大学薬学部)

〇-1 日本薬用植物友の会の東日本大震災から現在までの活動報告

〇我妻邦雄^{1, 2}, 今野勇^{1, 2}, 遠藤則子¹, 草野源次郎^{1, 2}

(¹日本薬用植物友の会、²NPO 法人薬用植物普及協会みやぎ (平成 30 年 3 月解散))

〇-2 福島臨床薬学研究会 27 年間の歩みとその評価

高橋智子^{1, 2}

(¹福島臨床薬学研究会事務局, ²公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部)

〇-3 国際薬史学会の活動と日本薬史学会の連携状況

但野恭一^{1, 2}

(¹NuLink Co. Ltd., Japan, ²日本薬史学会国際委員会)

〇-4 日仏薬学会の 50 年の歩み

〇赤木佳寿子¹, 市川厚²

(¹一橋大学大学院社会学研究科, ²京都大学名誉教授)

特別講演 I (11:10～12:10)

座長 船山信次 (副会長, 日本薬科大学客員教授)

我が国のベンチャービジネス、医薬品を例に、現在と将来

山田 英

(アンジェス株式会社代表取締役社長)

昼休み休憩（食事）（12:10～13:45）

理事会・評議員会（12:35～13:35）

特別講演Ⅱ・市民公開講座（13:45～14:45）

座長 江戸清人（年会長，エコー電力ビル薬局[仙台市]顧問）

日本史が変わってきている－古代史のエビデンスが蓄積

田中英道^{1,2}

（¹東北大学名誉教授，²日本国史学会代表理事）

一般口頭発表2 薬学の発展に関わった人たち（14:45～15:45）

座長 赤木佳寿子（一橋大学大学院社会学研究科）

日向須美子（北里大学東洋医学総合研究所）

〇－5 内山充先生の遺された思いと言葉を探る at 仙台：使命感と責任感の醸成の視点から

森本和滋

（国立医薬品食品衛生研究所（NIHS）生物薬品部）

〇－6 関東大震災（大正12）において災害医療支援活動を行った東北の薬剤師
五位野政彦

（東京海道病院薬剤科）

〇－7 売薬製造販売業者ホロウェイ夫妻の事蹟（上）～英国女子高等教育発展への貢献～
柳澤波香^{1,2}

（¹津田塾大学，²青山学院大学）

〇－8 日本初の無鉛白粉作製の背景とその無害証明に関わった薬学者たち
高際麻奈未^{1,2}

（¹東京薬科大学史料館，²北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部）

一般ポスター発表（15:45～16:45）

P-1 セルフメディケーション推進活動の経緯と展望

○村田正弘，江戸清人，大嶋耐之，安田俊道，高橋千佳子
（NPOセルフメディケーション推進協議会）

P-2 清水藤太郎先生の仙台における足跡について

○江戸清人¹，船山信次²，清水真知³，安藤崇仁⁴
（¹エコー電力ビル薬局 [仙台市]，²日本薬科大学薬学部，³平安堂薬局 [横浜市]，⁴帝京大学薬学部）

P-3 天平九年（737年）の藤原四兄弟（藤原不比等の息子達）の死因は痘瘡（天然痘）ではなく暗殺か

船山信次
（日本薬科大学薬学部）

P-4 薬学教育の変遷—薬剤師国家試験と職能評価

○竹内幸一¹，伊藤淳雄²，村田正弘³
（¹明治薬科大学，²新北陵病院，³NPOセルフメディケーション推進協議会）

一般口頭発表3 薬学関連の歴史（16:45～17:30）

座長 五位野政彦（東京海道病院）
桐原正之（静岡理工大理工）

O-9 共有価値創造の観点からみた1870年代～1910年代の大阪薬業界

安土昌一郎
（立教大学）

O-10 唐招提寺の薬園とその再興

西原正和
（奈良県薬事研究センター）

O-11 風邪の歴史と予防

○青沼悦子^{1,2}，陳海麗¹
（¹東北大学大学院医学研究科運動学分野，²おさんぼ調剤薬局[仙台市]）

一般口頭発表4 医薬品開発研究の歴史 (17:30~18:15)

座長 但野恭一 (NuLink Co.Ltd., Japan, 日本薬史学会国際委員会)
村井ユリ子 (東北医科薬科大学薬学部)

O-12 長井長義先生による麻黄のエフェドリン発見から EFE の開発研究まで

○日向須美子¹, 中森俊輔^{1,2}, 黄雪丹^{1,2}, 関根麻理子¹, 日向昌司³,
内山奈穂子³, 天倉吉章⁴, 小林義典^{1,2}, 合田幸広³, 花輪壽彦¹, 小田口浩¹
(¹北里大学東洋医学総合研究所, ²北里大学薬学部, ³国立医薬品食品衛生研究所,
⁴松山大学薬学部)

O-13 創薬の基礎としての有機合成化学 (2): フロン規制が有機フッ素化合物合成に
与えた影響

桐原正之
(静岡理工大理工)

O-14 21世紀における日本の医薬品開発の変遷 (~2020年) —ケミカルからバイオへの
流れの加速—

○榊原統子¹, 田村浩司², 松本和男³
(¹(一財)日本医薬情報センター, ²田辺三菱製薬(株), ³(株)ナールスコーポレ
ーション)

次年度年会長の挨拶 (18:15~18:20)

日本薬史学会 2023 年会会長 土岐隆信

閉会の挨拶 (18:20~18:25)

東北大学大学院薬学研究科副研究科長 富岡佳久